

# シカ捕獲技術マニュアル

## －これから捕獲に取り組む方へ－



# 目次



はじめに .....	1
<b>第1章 林業地での捕獲の必要性とマニュアルの活用方法</b> .....	<b>2</b>
1 なぜ林業事業体等にシカの捕獲が求められるのか .....	2
(1) 森林管理の一環としてのシカ管理 .....	2
(2) 林業地におけるシカ捕獲の担い手 .....	3
2 捕獲技術マニュアルの活用方法 .....	3
<b>第2章 シカの捕獲作業とは</b> .....	<b>4</b>
1 捕獲作業の理解 .....	4
2 捕獲手法の理解と工夫の必要性 .....	4
3 作業記録の重要性 .....	5
4 捕獲作業の安全管理と法令順守 .....	6
<b>第3章 林業地での効果的な捕獲手法</b> .....	<b>7</b>
1 捕獲手法の選定 .....	7
(1) 捕獲手法の種類と特徴 .....	7
(2) 捕獲手法の選択基準 .....	8
2 誘引式くくりわなによる捕獲 .....	9
(1) 誘引式くくりわなの捕獲の手順とポイント .....	9
(2) 事例紹介 .....	15
3 箱わな、囲いわなによる捕獲 .....	16
(1) 箱わな、囲いわなの捕獲の手順とポイント .....	16
(2) 事例紹介 .....	22
4 くくりわなによる捕獲 .....	23
(1) くくりわなの捕獲の手順とポイント .....	23
(2) 事例紹介 .....	25
<b>第4章 林業地における捕獲の実施体制</b> .....	<b>27</b>
1 林業事業体だけで捕獲を実施する .....	27
2 捕獲技術者と作業を分担して捕獲を実施する .....	29
<b>第5章 シカの動きと森林施業を考慮した捕獲作業</b> .....	<b>30</b>
1 シカの生態的特徴 .....	30
2 森林施業とシカの動きの関係 .....	31
3 防護柵とシカの動きの関係 .....	31
<b>付録 ICT機器の活用</b> .....	<b>32</b>

## はじめに



全国的なシカの増加に伴い、林業地でのシカの被害が深刻化しています。特に造林地における植栽木の食害や成木の樹皮の食害が目立っており、このような被害の発生は、生産コストの増大や森林所有者の経営意欲の低下につながります。

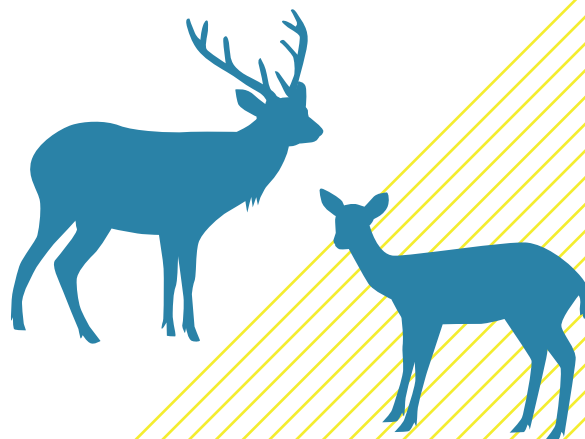
森林所有者や森林を管理している林業事業者等は、森林に生息する鳥獣についても森林管理の一環として管理していくことが重要です。

また、シカの被害対策としての防護柵の設置等は被害の軽減に一定の効果がありますが、被害のリスクを軽減するには、防護と捕獲の両輪で対策を進めていく必要があります。しかし、現在の主な捕獲の担い手である狩猟者は減少し、高齢化も進んでいることから、既存の狩猟者にこれ以上の捕獲を期待することは難しい状況となっています。

このような状況を踏まえ、林野庁では、捕獲経験のない林業事業者等がシカの捕獲の意義や作業内容を理解し、自ら捕獲作業に携わるきっかけとなるよう、本マニュアルを作成しました。

本マニュアルは、令和元年度シカ被害対策普及加速事業における過去に実施されたモデル事業等の調査、シカ捕獲を実施している林業事業者等の協力、シカ捕獲事業を推進する自治体の協力、有識者からの意見聴取等を経て作成されました。

本マニュアルが、これからシカの捕獲に取り組もうと考えている林業事業者等の一助になれば幸いです。



# 第1章

## 林業地での捕獲の必要性和マニュアルの活用方法



1章

2章

3章

誘引式くくりわな

箱わな、囲いわな

くくりわな

4章

5章

### 1 なぜ林業事業体等にシカの捕獲が求められるのか

#### (1) 森林管理の一環としてのシカ管理

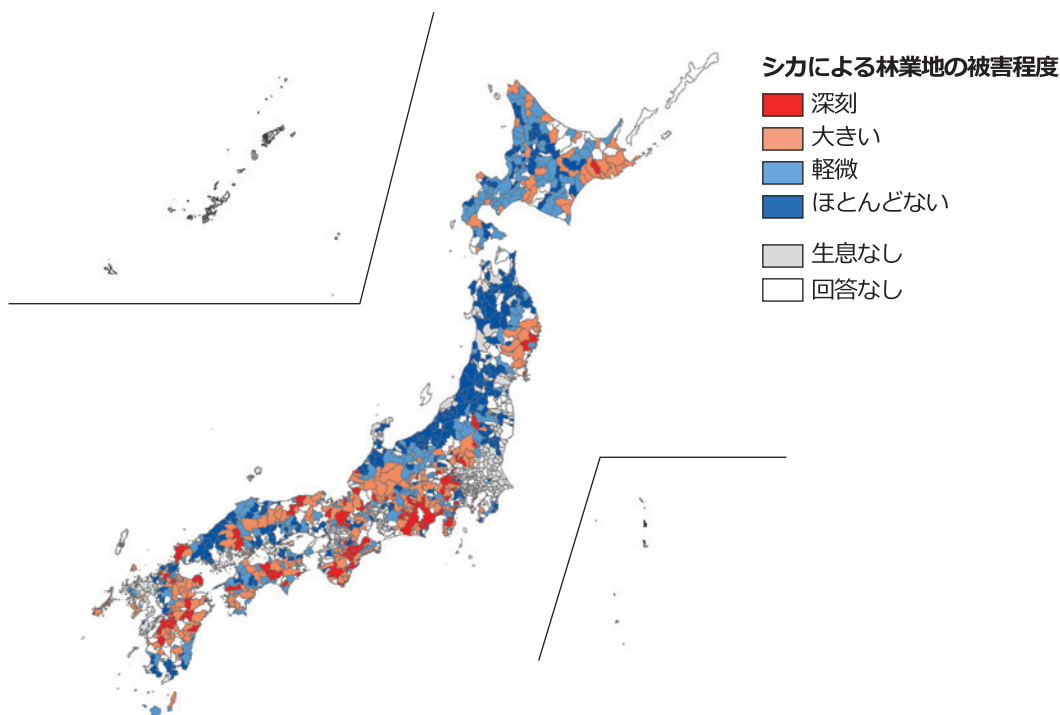
##### 全国的に林業地でシカの被害が深刻化しています

近年、シカの生息数の増加や生息域の拡大により、全国的にシカによる森林被害が大きな問題となっています。

また、シカの生息密度が高い場所では、強度の採食によって下層植生が消失し、土壌の流出等により森林の有する公益的機能が低下しています。



シカに食害されたヒノキ植栽木



市町村別の林業被害聞き取り調査（令和元年度シカ被害対策普及加速事業（林野庁）による）

##### シカ管理は森林管理の一部です

シカは森林に生息する動物であり、森林を管理している林業事業体は、森林管理の一環としてシカの管理に取り組むことが重要です。

シカによる被害を抑えるには、防護（守り）と捕獲（攻め）の両輪で対策を進めていく必要があります。

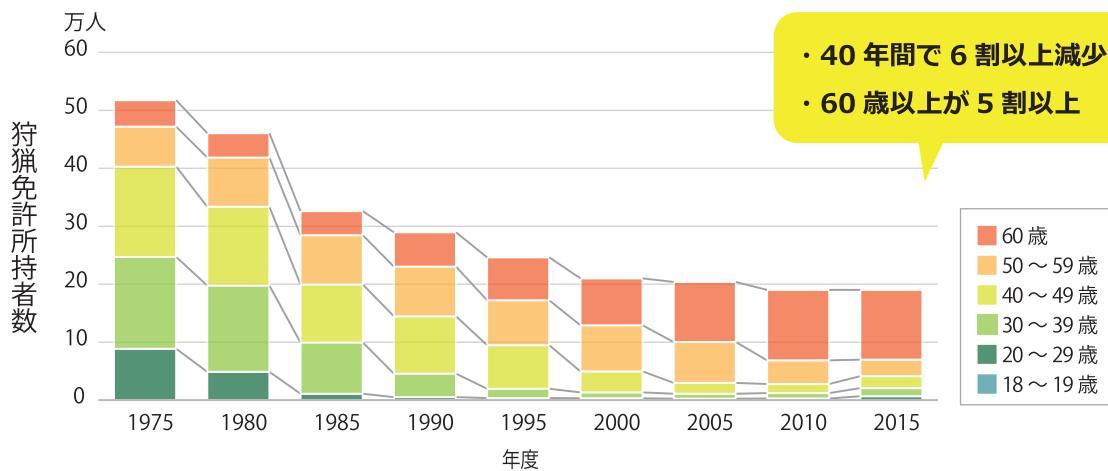
## (2) 林業地におけるシカ捕獲の担い手

### 全国的に捕獲の担い手が不足しています

シカの捕獲の担い手である狩猟者の高齢化と減少が進んでいる一方で、シカの生息数は高い水準を維持しており、新たな捕獲の担い手の確保が課題となっています。

そのため、今後は森林管理の担い手である林業事業者等が積極的に捕獲に携わっていく必要があります。

林野庁では、今回、林業事業者等が積極的に捕獲業務に携わるきっかけとなるよう、このシカ捕獲技術マニュアルを作成するとともに、市町村等からの捕獲業務発注なども見越して捕獲業務の設計・管理のためのマニュアルを作成しました。



全国における狩猟免許所持者数（年齢別）の推移（環境省 HP より作成）

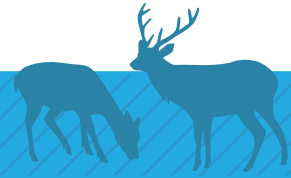
## 2 捕獲技術マニュアルの活用方法

林業地の捕獲従事者が抱えている疑問や課題を一覧にして、課題解決の参考になる情報を図表やコラムなどで整理しました。具体的な課題に応じてご活用ください。

- 捕獲作業の心構えを知りたい……………▶ p4～p6
- シカの捕獲手法の種類や特徴を知りたい……………▶ p7～p8
- 具体的な捕獲の手順を知りたい、成果を上げたい
  - 誘引式くくりわな……………▶ p9～p15
  - 箱わな・囲いわな……………▶ p16～p21
  - くくりわな……………▶ p23～p25
- 森林施業と捕獲作業を両立している事例はあるのか？……………▶ p22
- 林業事業者だけで捕獲している事例はあるのか？……………▶ p22, p25～p26, p27～28
- 猟友会などと一緒に捕獲している事例はあるのか？……………▶ p29
- 捕獲に役立つシカの習性を知りたい……………▶ p30～p31

## 第2章

# シカの捕獲作業とは



### 1 捕獲作業の理解

#### 捕獲作業には試行錯誤が必要です

捕獲は生き物を相手にしているため、必ず成果の上がる手法が存在するわけではありません。同じ場所で育った木でも、木ごとに特徴が異なるように、シカにも個体ごとに特徴があります。捕まえるには様々な試行錯誤を重ねる必要があります。



#### 捕獲作業には柔軟な対応が必要です

捕獲作業は、柵の設置など構造物を設置する作業とは異なり、計画的に作業を進めにくい側面があります。

荒天時に施業を延期するように、時には予定していた作業を延期したり、予定を組み替えたりするなど柔軟な対応が求められます。



### 2 捕獲手法の理解と工夫の必要性

#### 複数の捕獲手法があります

シカの行動や食性などの特徴は季節や場所によって異なります。また、捕獲も手法ごとに手間のかかり方や適した場所などが異なります。したがって、シカを捕まえるために適した手法は状況によって異なります。

様々な捕獲手法の知識や技術を習得して、その場所にあった手法を選択する必要があります。

#### 現場の状況に応じた工夫が必要です

シカの動きは生息環境、時期、気候、人などに影響を受けるため、同一の手法でも、シカを捕まえるには細かい工夫をする必要があります。

本マニュアルは、一般的な捕獲手法を記載していますが、より効率的に捕獲するには現場の状況に合わせた工夫が不可欠です。

### 3 作業記録の重要性

#### 作業内容や現場の状況を記録することで、作業や捕獲の効率が高まります

捕獲作業の際には、作業内容を記録します。捕獲の記録だけでなく、シカの「痕跡の多さ」など現場の状況も記録します。作業の記録を蓄積することで、捕獲しやすい場所や時期を整理していき、作業の効率化につなげます（下図：記録票の例）。

スマートフォンやタブレットで利用できる捕獲作業用のアプリケーションも開発されています。その中には、現場で入力することによって、作業の効率化だけでなく、作業の進行管理や安全管理に役立つものもあります。

〇〇シカ捕獲事業のわな設置記録表

作業日  年  月  日

●わな設置記録  
作業当日に設置したわなごとに記録すること。わな位置は緯度経度またはメッシュ番号を記録。

わな番号	わな種類	わな位置			周辺の痕跡量	餌付け		稼働の有無 (トリガーセット)
		経度	緯度	メッシュ番号		有無	採食状況	
					多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
					多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
					多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
					多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無

〇〇シカ捕獲事業のわな見回り記録表

作業日  年  月  日

●わな確認記録  
作業当日に稼働していたわなごとに記録すること。わな番号は設置記録の番号に対応させること。

わな番号	作動の有無	捕獲の有無	わなの処置	周辺の痕跡量	餌付け		稼働の有無 (トリガーセット)
					有無	採食状況	
	有 / 無	有 / 無	継続 / 撤去	多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
	有 / 無	有 / 無	継続 / 撤去	多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
	有 / 無	有 / 無	継続 / 撤去	多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
	有 / 無	有 / 無	継続 / 撤去	多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無
	有 / 無	有 / 無	継続 / 撤去	多 / 中 / 少	有 / 無	完食 / 半食 / 無 / 不明	有 / 無

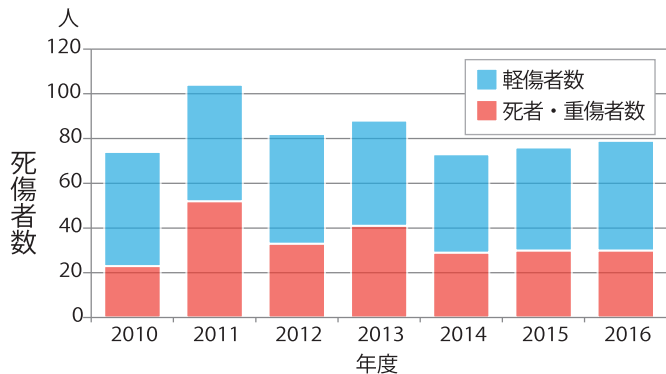
#### 捕獲した時は鳥獣保護管理法に基づく法定報告が必要です

シカを捕獲した際には、捕獲の許可等に基づいた法定報告が必要です。法令で定められた項目は必ず記録し、報告しないとイケません。許可の区分（狩猟や有害鳥獣捕獲など）により法定報告の項目は異なります。報告する項目は捕獲場所・鳥獣の種類、捕獲数、処置の概要などです。

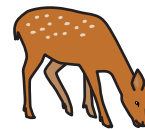
## 4 捕獲作業の安全管理と法令順守

### 捕獲作業には危険が伴います

捕獲作業に使用する猟具（銃やわな）やシカに止めを刺すときに使用するナイフや電殺器などは、それ自体に殺傷能力や拘束力があります。また、捕獲作業は捕獲した動物の逆襲に遭ったり、作業中に滑落したりする可能性があります。このように捕獲作業は危険を伴う作業なので、安全第一で行動することが求められます。現場で判断に迷った時は、より安全な方を選択するようにしてください。



狩猟による死傷者数の推移（鳥獣関係統計より作成）



安全第一



- ・毎年約 80 人が死傷
- ・死者、重傷者は毎年 30 人前後

### 目立つ色の服装を心がけましょう

獲物と間違われて銃で撃たれる事例が発生しています。他に猟をしている人がいる場所では、動物に間違われないために目立つ色の服（オレンジヘルメット、オレンジベスト等）を着用してください。また、音で存在を知らせるために鈴やホイッスルを携帯したり、シカのおしりと誤認されないために、極力白色のものは身につけないなどの対策を徹底するようにしてください。

### 法令を遵守してください

捕獲作業を実施する際には、鳥獣保護管理法をはじめとして様々な法令を遵守する必要があります。例えば、シカを捕獲する時には、捕獲の許可等が必要なだけでなく、捕獲場所や捕獲に使用する道具などに様々な規制があります。また、わなで捕獲する際には、捕獲していることがわかるように目立つ場所に標識を付ける必要があります。

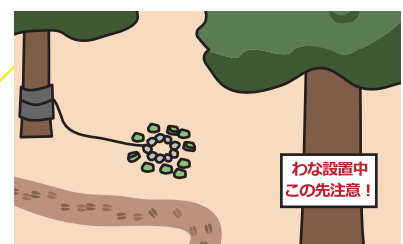
捕獲をする際には、違法な捕獲にならないように、関連する法令を確認してから実施してください。

▶参考 認定鳥獣捕獲等事業者講習会：講習テキスト（第8版）

<https://www.env.go.jp/nature/choju/capture/download.html>

### わなによる捕獲と安全管理

わなは一般の人の出入りが少ない場所に設置してください。また、人が近づかないように捕獲していることを知らせるための「注意喚起」の看板などを設置しましょう。





## 第3章

# 林業地での効果的な捕獲手法



1章

2章

3章

誘引式くくりわな

箱わな、囲いわな

くくりわな

4章

5章

### 1 捕獲手法の選定

#### (1) 捕獲手法の種類と特徴

シカの捕獲手法は大きく銃猟とわな猟にわけられます。銃猟は、安全面・知識面・技術面でわな猟よりもハードルが高くなります。また、銃猟をするには、狩猟免許の他に銃の所持許可が必要です。

本マニュアルは、これから捕獲に取り組む林業事業者等向けのため、捕獲手法の解説はわな猟に限定します。

シカの捕獲に使用する主なわなは「くくりわな」「箱わな」「囲いわな」の3種類<sup>(注1)</sup>があります。また、くくりわなを使った捕獲は誘引<sup>(注2)</sup>の有無により手法が異なります。そのため、誘引を必要とする「誘引式くくりわな」「箱わな」「囲いわな<sup>(注3)</sup>」と誘引を必要としない「くくりわな」の4種類に区分します。各手法の特徴を把握して、捕獲手法を選択しましょう。

項目	誘引式くくりわな	箱わな	囲いわな	くくりわな
餌付け	あり	あり	あり	なし
捕獲に必要な技術レベル	低い	低い	低い	やや高い
止めさし時の危険性 <sup>(注4)</sup>	やや高い	低い	低い	やや高い
アクセス	作業道から離れても可	作業道近く	作業道近く	作業道から離れても可
作業人数	見回り1~2人 設置1人	見回り1~2人 設置1~2人	見回り1~2人 設置3~4人	見回り1~2人 設置1人
わなの移動性	高い	やや低い	低い	高い
費用(目安)	数千円~	数万円~	数十万円~	数千円~
1回の捕獲数	1頭	1頭~2頭	1頭~複数頭	1頭
捕獲までの期間(目安)	数日~	数週間~	数週間~	1日~

(注1) わなの構造や特徴に関する参考資料としては、以下のマニュアルがあります  
野生鳥獣被害防止マニュアル-イノシシ、シカ、サル、カラス(捕獲編): 第2章 p27 ~ p30  
[https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/old\\_manual/manual\\_hokaku\\_old/data2.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/old_manual/manual_hokaku_old/data2.pdf)

(注2) 誘引とは、餌などを用いて動物を目的の場所におびき寄せることです

(注3) 囲いわなは、林業者が所有地内で林業に対する被害防止のために使う場合は、狩猟免許の取得が要らない場合があります((注1)のマニュアルのP29に記載のとおり)。  
詳しくは都道府県等にお問い合わせ下さい。

(注4) 止めさしとは、わなで捕まえた動物にとどめを刺すことです

## (2) 捕獲手法の選択基準

捕獲をする際は、現場の状況に応じて臨機応変に対応できるように複数の捕獲手法を想定しましょう。ただし、現場の状況により、選択できない手法や非効率な手法もあります。捕獲する場所や捕獲の作業期間、捕獲時のシカの状況などを考慮して効果的な捕獲手法を選択しましょう。

条件	誘引式くくりわな	箱わな	囲いわな	くくりわな
① 平坦地がない		×	×	
② 丈夫な立木などがない	×			×
③ 道路から遠い	△	×	×	△
④ 登山道に近い	△			△
⑤ シカの群れが小規模			△	
⑥ シカが餌で誘引できない	×	×	×	
⑦ クマやカモシカが多い	△	△	△	×
⑧ 捕獲期間が1か月未満		△	×	

### 上の表で×または△の理由 (①～⑧は表の番号と対応)

- ① 一般的な箱わなや囲いわなは、斜面に設置するとわなが転倒することがあるため、斜面の設置に適していません。
- ② くくりわなは、わなを設置する際にワイヤー等をくくり付ける「根付」と呼ばれる丈夫な立木（枯損木等は絶対に使わない）などが必要です。
- ③ 箱わなや囲いわなは、重くて大きいいため、道路から遠い場所の設置に適していません。また、捕獲した個体を搬出する必要がある場合には、どの手法であっても道路から遠い場所に設置すると捕獲した時の負担が大きくなります。
- ④ くくりわなは、かかっている動物がワイヤーの伸びる範囲内を移動できます。また、ワイヤーが切れたりして動物が逃げる可能性が他のわなに比べて高いです。そのため、人が通る可能性のある場所の近くは避けてください。
- ⑤ 一般的な囲いわなは、高額で捕獲までに時間がかかるため、大きな群れをまとめて捕獲できないと費用対効果が低くなります。
- ⑥ シカが餌を食べなければ、わなのある場所にシカを誘導できません。夏場はシカの食べ物が豊富にあるため、餌で誘引しにくい傾向があります。
- ⑦ クマやカモシカは、捕まったときのリスクが大きいため、シカだけを誘引できる場合を除いて場所の変更や捕獲の中止を検討してください。
- ⑧ 箱わなや囲いわなは、わなが見えているため、シカがわなに侵入するようになるまで時間がかかります。特に、群れを捕獲するための囲いわなは、群れ全体がわなに侵入するまで時間がかかります。

## 2 誘引式くくりわなによる捕獲

※ 誘引式くくりわなの「餌付け」や「わなの設置」手法には様々な種類があります。本マニュアルでは獣道上に設置する必要がなく捕獲成果が良いとされている「小林式誘引捕獲法」を例に解説します

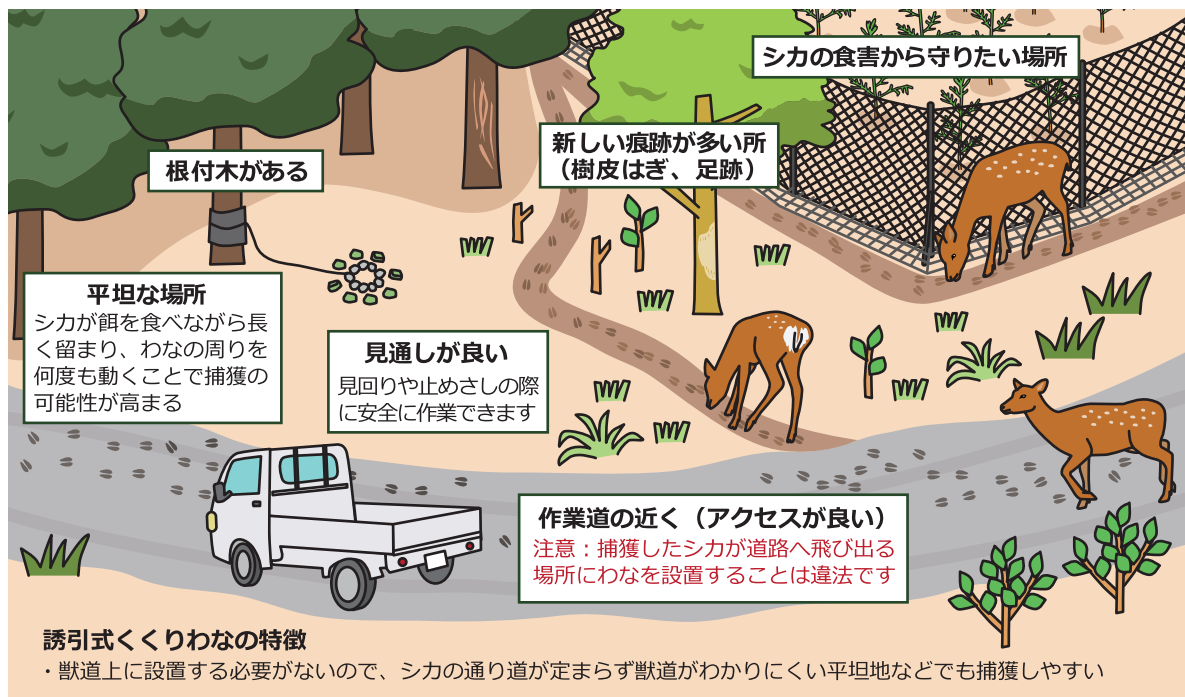
### (1) 誘引式くくりわなの捕獲の手順とポイント



### 1. 場所の選定

#### 場所選定の基準

捕獲の可能性が高い、安全に作業できる、作業の効率性が高い場所を選ぶ





## 2. 餌付け

### 餌付けの手順



元の状態



障害物となる  
石や木を置く

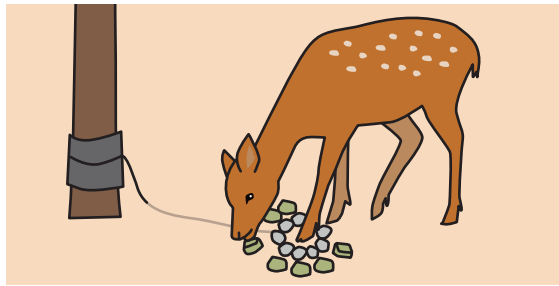


障害物の周りに餌を撒く  
(設置時と同じ見た目)

完了



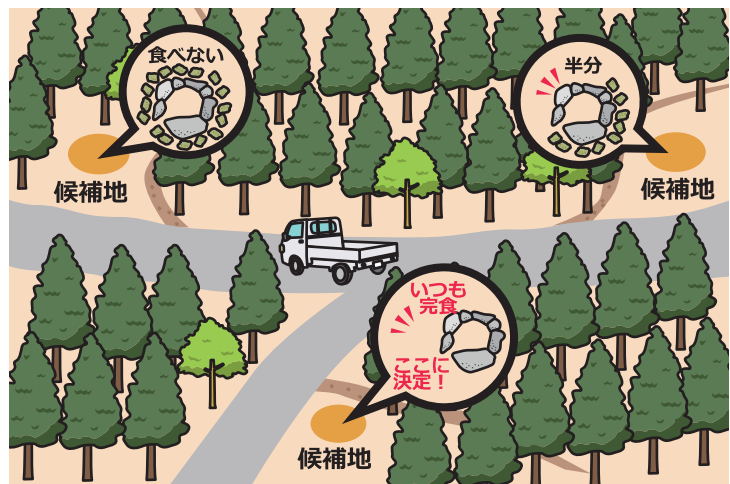
### シカが障害物の真ん中を踏む姿をイメージして餌を撒きましょう



- 小林式誘引捕獲法は、シカが地面にある餌を食べる際に、餌の近くに前足を置く習性を利用した捕獲方法です
- 手前の餌を食べた後に、奥の餌を食べる時にわなを踏みやすい傾向があります

### 餌付けのポイント

- わなの設置を想定している場所に撒く
- わなの設置を想定して土を均すなど、わな設置後にシカが警戒しないように餌付けの時から環境を整える
- 餌付け期間は3～7日で行なう（餌を毎回完食している場所は設置後すぐの捕獲や連続捕獲が期待できる）



### 錯誤捕獲を減らすポイント

※錯誤捕獲とは、捕獲対象以外の鳥獣を誤って捕獲すること

- 獣道から少しずらしてわなを設置する
- 餌はヘイキューブなどシカ以外の動物があまり好まないものにする
  - ▶ シカ以外の動物があまり好まない餌は、動物の種類だけでなく時期や地域によっても異なるため、餌の選定には試行錯誤が必要です



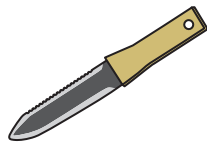
### 3. わなの設置

#### わなを埋めるのに便利な装備品



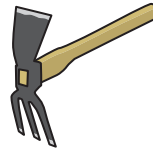
##### 手袋

自由に指先を動かせるものが良い



##### 山菜堀ナイフ

根が多い場所の土を掘るのに適している



##### イカ型鍬

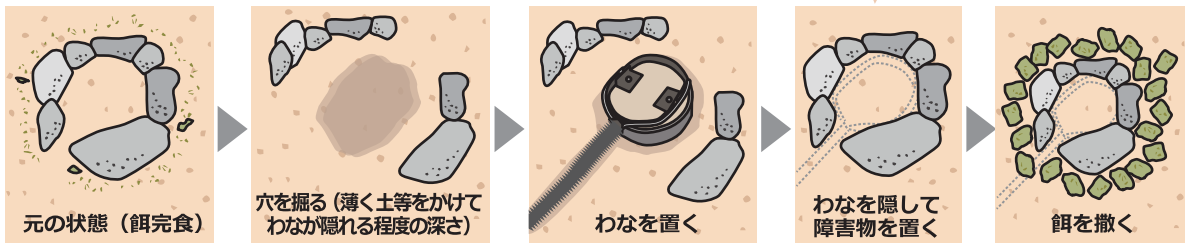
刃を使い分けることでいろいろな土質の土を掘ることができる



##### 剪定ばさみ

少し太い根などを切るのに適している

#### 設置の手順



#### 設置のポイント

- 餌がよく食べられている場所に設置する
- わなやワイヤーは見えないように埋める（隠す）
- わなと障害物の隙間を狭くする
  - ▶ シカがわなの枠を踏むことによる取り逃しを減らせます。ただし、作動したワイヤーが障害物に接触するほど隙間を狭くすると、作動が遅くなり取り逃しの原因になります

#### 作動確認

設置に慣れていないうちは、埋めたわなを作動させ、わなが作動する重さやワイヤーがくくる高さなどを確かめてください

##### チェックポイント

- 素早くワイヤーが作動するか
- ワイヤーがくくる高さが低すぎないか
- ワイヤーに木の枝や落ち葉が挟まって抜け落ちないか



#### 誤作動や錯誤捕獲を減らすポイント

- 10kg 以下で作動しないようにわなの感度を調節する



## 4. 見回り

### 見回りの手順 ①安全な場所からわなの状況を確認する → ②捕獲できるように工夫する

わなを毎日見回することで安全確保と捕獲成果の向上につながります  
※ 遠隔でわなを確認する時も画像等で1日1回は確認してください

#### ① 安全な場所からわなの状況を確認する



- イノシシやクマの幼獣が錯誤捕獲された時は、親がわなの近くにいることがあるので注意してください

#### ② 捕獲できるように工夫する

- 餌やわなに対するシカの反応を確認して餌や障害物の種類や配置を工夫する
- 常に鮮度の良い餌を撒いて、シカの餌への執着心を高める
- 誤作動したわなや露出したわなを埋め戻す

捕獲成果  
アップ!



#### 見回りと安全確保

##### 捕獲した動物をなるべく早く止めさし、または放獣する

- ▶ 捕獲した動物を長時間放置すると、止めさし時に足がちぎれたり、捕獲した動物にクマが誘引されたりして重大な事故の原因になります

##### 腐敗した餌は交換する

- ▶ 腐敗した餌はシカが食べないだけでなく、放置するとシカ以外の動物を誘引して錯誤捕獲の原因になります

##### クマやイノシシが誘引されている痕跡（足跡や糞など）がある場合はわなを移設する

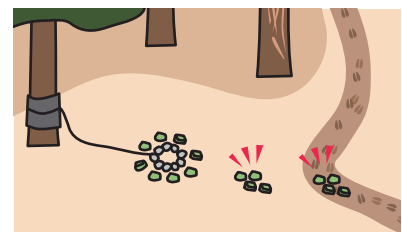
#### 捕獲がうまく行かない時の対応例

##### 餌が食べられない

- ▶ わなの周りだけでなく獣道から誘導するように餌を撒く

##### 餌は完食しているが捕獲できない

- ▶ 餌を置いているわなを明らかに警戒している時は、わなまでのシカの通り道に別のわな（誘引しない通常のくくりわな）を設置する



##### 踏まれたわなが作動していない

- ▶ 土が固まりわなが作動しにくい → 土を減らす、固まりにくい土を使う、わなを移設する
- ▶ 設置の仕方の問題がある → 作動確認してから設置する

##### わなの縁を踏まれている

- ▶ 石などの障害物の位置や餌の位置をずらす

##### 他の動物に繰り返しわなを掘り返される

- ▶ わなを移設する



## 5. 止めさし (銃以外の方法)

止めさしは特に危険な作業なので、捕獲技術者の協力が得られる場合には、銃による方法を含めて止めさし作業を依頼することも選択肢の一つです

▶ p29 参照 (第4章2「捕獲技術者と作業を分担して捕獲を実施する」)

### 止めさし手順 ①捕獲状況の確認 → ②保定 → ③止めさし → ④処分

#### 止めさしと安全確保

- ・ 2人以上で作業する
- ・ 安全に実施できるようになるまで捕獲技術者(経験者)と一緒に実施する
- ・ 止めさし方法を複数準備し、状況に応じて方法を選択する
- ・ 捕獲されたシカの状態をしっかりと確認する
- ・ シカの動きを制御して作業する

#### ① 捕獲状況の確認

##### わなに近づく前の確認事項

- シカの可動範囲
- ワイヤーの状態 (ワイヤーが切れないか)
- 拘束状況 (ワイヤーが足から抜けないか、足がちぎれないか)
- 根付木の状態

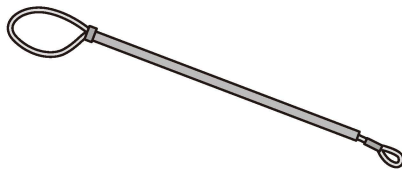
##### わなに近づく時

- シカの突進やワイヤーが切れることを想定して斜面の下側以外から近づく



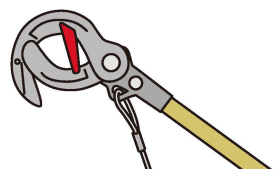
#### ② 保定

##### 保定具と使い方



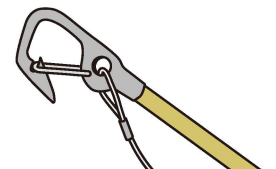
##### スネア (又はロープ)

首、角、足 (わなにかかっている対角の足) をくくって動きを制限する



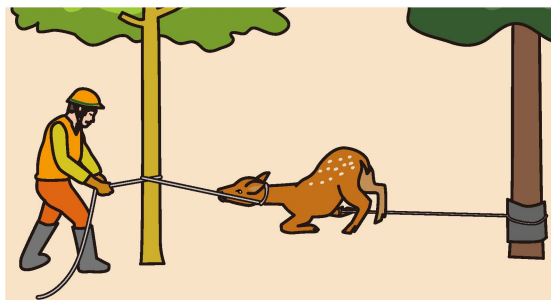
##### 足錠

足 (わなにかかっている対角の足) に取り付けて動きを制限する



##### チョンがけ

足をくくっているワイヤーに引っかけて動きを制限する



- 保定具を用いて首、角、足 (わなにかかっている対角の足) を固定する
- 保定具にはロープを結び付け、ロープを周辺の木などに縛りつけて固定する
- ハンマーや木の棒などで気絶させる

(注意) オスの角は危険です。角がある場合は必ず保定しましょう

### ③ 止めさし



### ④ 処分

- 動物の死体は一般廃棄物になる
- 廃棄物処理施設に搬送したり埋設したりするなど適切に処理する必要がある
- 埋設する場合、予め重機で穴を掘削しておくことで埋設にかかる時間を削減できる
- 速やかに食肉処理施設等に搬送できる場合は有効活用も検討しましょう

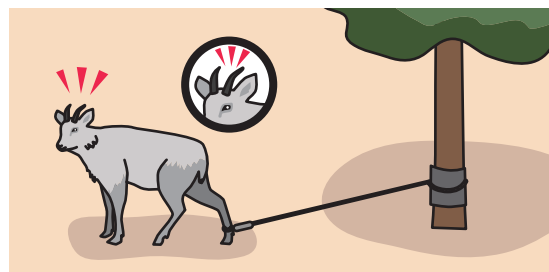
#### 錯誤捕獲の対応 (捕獲の許可がない動物が捕獲された場合)

- 錯誤捕獲をしないことが最も重要です。設置場所の選定、餌の種類を選定、わなの感度の調節、見回り時の痕跡確認とわなの移設の判断等により錯誤捕獲を未然に防ぎましょう
- また、錯誤捕獲が起こった場合に備えて、捕獲の許可権者 (市町村等の担当者) と錯誤捕獲時の対応方針について事前に取り決めをしておきましょう

#### クマ、カモシカ、イノシシなど大型動物が捕獲された場合

- 危険なので近寄らず、動物から目を離さずに現場から離れて市町村等の担当者に連絡してください

※カモシカは国の特別天然記念物に指定されているので、文化財保護法に基づく手続きも必要です。その場合に備えて市町村等の担当者と事前に打ち合わせておきましょう。



#### 中型動物が錯誤捕獲された場合

- スネアや盾などを用いて動物の動きを抑え、わなを外して放獣してください
- 動物に噛まれると感染症に感染する可能性があるため気を付けて作業しましょう





## 6. わなの継続とわなの移設

餌に執着しているシカが複数いる場合、捕獲後に同じ場所にわなを設置しても連続で捕獲できる可能性があります。ただし、捕獲した場所でナイフを使った止めさしや解体をすると、シカの血などで現場が荒れてわなの継続が困難になります。

### わな継続の判断

- 捕獲後の現場が荒れていない時は、わなを再設置して様子を見る

→  **3. わなの設置** へ

### わなの移設の判断

- 捕獲後の現場が荒れている時やわなの再設置後に1週間以上餌が食べられない時は、わなの移設を検討する

→  **1. 場所の選定** へ

※わなを一旦撤去して、1～2週間後にわなを再設置すると捕獲しやすいこともあります

## (2) 事例紹介

### コラム 誘引式くくりわなによる捕獲の事例

奈良県の野迫川村森林組合では平成28年からくくりわな等を用いて猟友会と一緒に捕獲作業を実施している。平成30年度は11月～12月に誘引式くくりわな（小林式誘引捕獲法）で30頭のシカを捕獲した（▶p29 コラムを参照）。

#### ◆捕獲実績の変化

平成30年度に通常のくくりわなから小林式誘引捕獲法に捕獲手法を変更したところ、捕獲効率（わな設置延べ台日数あたりの捕獲数）が約5倍に向上した。



手法	捕獲数			わな設置延べ台日数			捕獲効率（CPUE）		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
くくりわな	11	17	30	990	1838	600	0.011	0.009	0.050

#### ◆わなの様子



#### ◆現場の声

餌はハイキューブを使用することで、クマ類等の錯誤捕獲の不安が減った。また、獣道を考慮せずにわなを設置できるので、森林組合の職員でも導入しやすかった。

#### ◆止めさし

生体捕獲を実施した。捕獲後は隣接する市が運営する解体施設周辺で止めさしを実施することで、捕獲個体の有効活用ができた。（▶p29 コラムを参照）  
止めさし作業は猟友会会員が実施し、森林組合職員は保定等の補助を行った。

### 3 箱わな、囲いわなによる捕獲

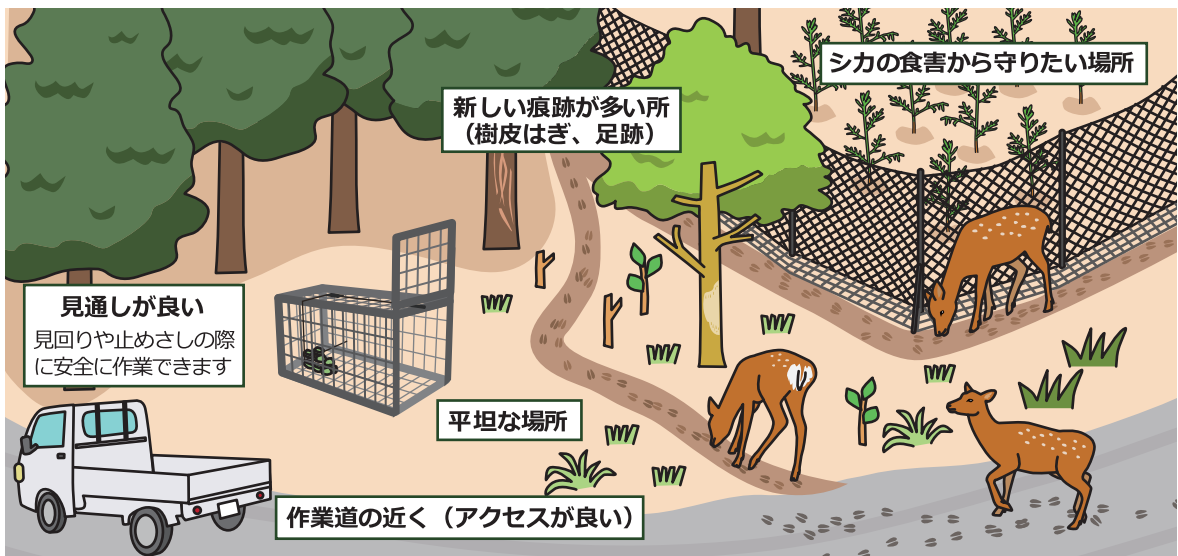
#### (1) 箱わな、囲いわなの捕獲の手順とポイント



#### 1. 場所の選定

##### 場所選定の基準

捕獲の可能性が高い、安全に作業できる、作業の効率性が高い場所を選ぶ



## 2. 事前の餌付け

### 餌付けのポイント

- わなの設置を想定している場所に撒く
- 連続して餌を完食するまで餌付けする
- 餌付け期間は3～7日でわなの設置を判断する



### 錯誤捕獲を減らすポイント

※錯誤捕獲とは、捕獲対象以外の鳥獣を誤って捕獲すること

- 獣道から少しずらしてわなを設置する
- 餌はヘイキューブなどシカ以外の動物があまり好まないものにする
  - ▶ シカ以外の動物があまり好まない餌は、動物の種類だけでなく時期や地域によっても異なるため、餌の選定には試行錯誤が必要です

## 3. わなの設置

### 設置のポイント

餌がよく食べられている場所に設置

わなに歪みやがたつきなど異常がないか点検

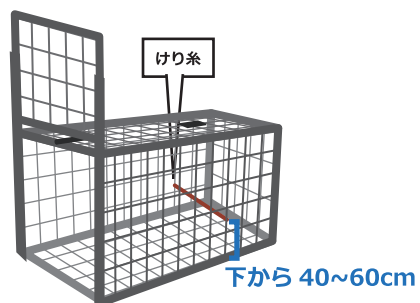
5. 捕獲開始 までは扉が落ちないようにロック

仕掛けを設置

5. 捕獲開始 の時に仕掛けを設置すると、シカが警戒して捕まりにくくなる

### けり糸の調整 (仕掛けでけり糸を使う場合)

- 中型動物の錯誤捕獲を防ぐために40cm以上の高さにセットする

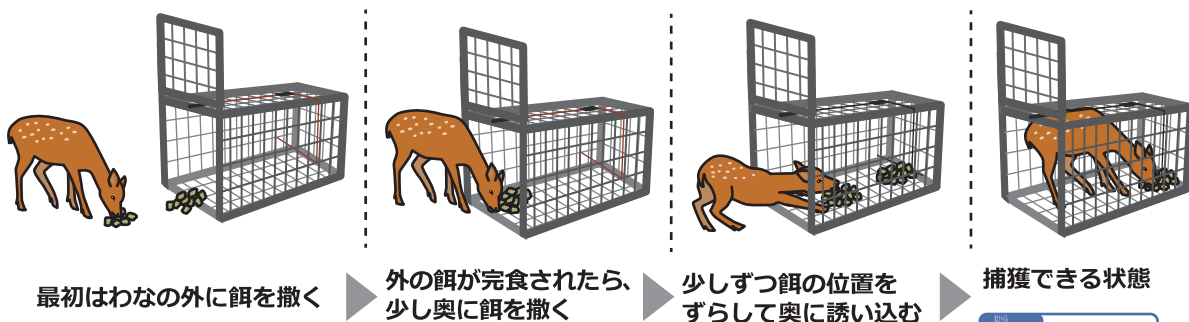


## 4. 餌付け

餌付けの手順 ① 餌の採食状況を確認する → ② 餌を交換する

### 餌付けのポイント

- 常に鮮度の良い餌を撒いて、シカの餌への執着心を高める
  - ▶ 餌が完食されているのに餌を補充しないと餌への執着心が薄れて捕獲しにくくなります
- わなの奥に誘導するように餌を撒く
  - ▶ 完食された場所に何度も餌を撒くと奥に誘導することが難しくなります



最初はわなの外に餌を撒く

外の餌が完食されたら、  
少し奥に餌を撒く

少しずつ餌の位置を  
ずらして奥に誘い込む

捕獲できる状態

5. 捕獲開始

※外の餌が食べられない時は、獣道から誘導するように餌を撒く

### 餌付けと安全確保

- わなの周辺にクマやイノシシが誘引されている痕跡（足跡や糞など）がある場合は餌を変えるか餌付けを中止する

## 5. 捕獲開始

### 捕獲開始のポイント

仕掛けをセットして  
捕獲できる状態へ

作動状況を確認

- ・ 仕掛けの感度
- ・ 扉が落ちる速度を調整

餌はわなの  
奥だけ撒く

## 6. 見回り

### 見回りの手順 ①安全な場所からわなの状況を確認する → ② 捕獲できるように工夫する

わなを毎日見回することで安全確保と捕獲成果の向上につながります  
※ 遠隔でわなを確認する時も画像等で1日1回は確認してください

#### ① 安全な場所からわなの状況を確認する



- イノシシやクマの幼獣が錯誤捕獲された時は、親がわなの近くにいることがあるので注意してください

#### ② 捕獲できるように工夫する

- 餌やわなに対するシカの反応を確認して餌の種類や配置を工夫する
- 常に鮮度の良い餌を撒いて、シカの餌への執着心を高める
- わなに異常がないか点検する

捕獲成果  
アップ!



#### 見回りと安全確保

##### 捕獲した動物をなるべく早く止めさし、または放獣する

- ▶ 捕獲した動物を長時間放置すると、捕獲した動物にクマが誘引されたりして重大な事故の原因になります

##### 腐敗した餌は交換する

- ▶ 腐敗した餌はシカが食べないだけでなく、放置するとシカ以外の動物を誘引して錯誤捕獲の原因になります
- ▶ わなの中で作業するときは、扉が落ちないように安全装置をかけましょう

##### わなの周辺にクマやイノシシが誘引されている痕跡（足跡や糞など）がある場合は餌付けやわなの稼働を中止する

#### 捕獲がうまく行かない時の対応例

##### 餌が食べられない

- ▶ わなの周りだけでなく獣道から誘導するように餌を撒く



## 7. 止めさし (銃以外の方法)

止めさし手順 ①捕獲状況の確認 → ②保定 → ③止めさし → ④処分

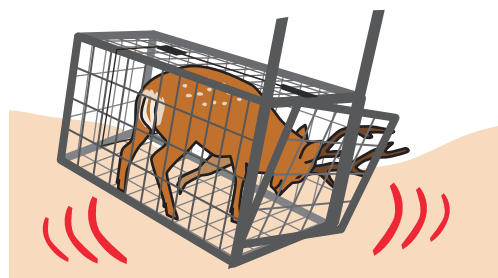
### 止めさしと安全確保

- 2人以上で作業する
- 安全に実施できるようになるまで技術者と一緒に実施する
- 止めさし方法を複数準備し、状況に応じて方法を選択する

### ① 捕獲状況の確認

わなに近づく前の確認事項

- 扉などが壊れそうでないか
- シカが暴れてわなが倒れないか



### ② 保定

- シカの動きを制御して作業する



### ③ 止めさし





#### 4 処分

▶ p14 参照 (誘引式くくりと同じ)

#### 錯誤捕獲の対応 (捕獲の許可がない動物が捕獲された場合)

##### クマ、カモシカ、イノシシなど大型動物が捕獲された場合

▶ p14 参照 (誘引式くくりと同じ)

##### 中型動物が錯誤捕獲された場合

▶ 安全なタイミングで扉を開けて放獣してください



#### 8. わなの継続とわなの移設


餌に執着しているシカが複数いる場合、捕獲後に同じ場所で捕獲できる可能性があります



#### わなの継続と移設の判断

- わなの外とわなの奥に少量の餌を撒いて様子を見る

奥の餌を食べる →  6. 見回り へ

外の餌のみを食べる →  4. 餌付け へ

1週間以上餌が食べられない →  1. 場所の選定 へ

※わなを一旦休止して、しばらくしてから餌付けを再開すると餌が食べられることもあります

## (2) 事例紹介

＼森林施業と捕獲作業の両立／ ＼林業事業体だけで実施／

### コラム 囲いわなによる捕獲の事例

徳島県の林業事業体である株式会社山城もくもくは、植栽作業と並行して平成28年度からネット式囲いわなで捕獲を行っている。平成30年度は10月～3月に囲いわな7基とくくりわな10基ほどを運用し、囲いわなだけで25頭のシカを捕獲した。

#### ◆捕獲の経験

捕獲を始めた当時、捕獲の経験者はいなかった。徳島県立農林水産総合技術支援センターの専門家の指導の下で、1年で止めさしを含むすべての捕獲作業を実施できるリーダーが育った。現在は、そのリーダーの下で自社のみで捕獲作業を実施している。



#### ◆わなの工夫と ICT の活用

(自作のネット式囲いわなを使用)

囲いわなの落とし扉は、ネット引き上げ式のわなで捕獲個体に逃げられる事例が発生したことから、ネット落下式に改良した。また、ネットの種類や高さなども試行錯誤しながら都度改良を加えている。

囲いわなにはメール送信機能付きカメラを設置した。捕獲があった場合は事前に知ることができるため、植栽作業の予定を調整して捕獲作業を実施した。

※わなの作成方法は「再造林地におけるシカ捕獲技術マニュアル ver.1」(徳島県立農林水産総合技術支援センター 2017年9月)に記載



#### ◆止めさし

主に電殺器で止めさしを実施

#### ◆被害の変化

以前はツリーシェルターより上には育たなかったスギが育つようになった。「被害が減った」「下草が育つようになった」との声があり、捕獲によりシカの生息密度が低下していると考えられる。

#### ◆1日の作業スケジュールの例(見回りを実施する日)

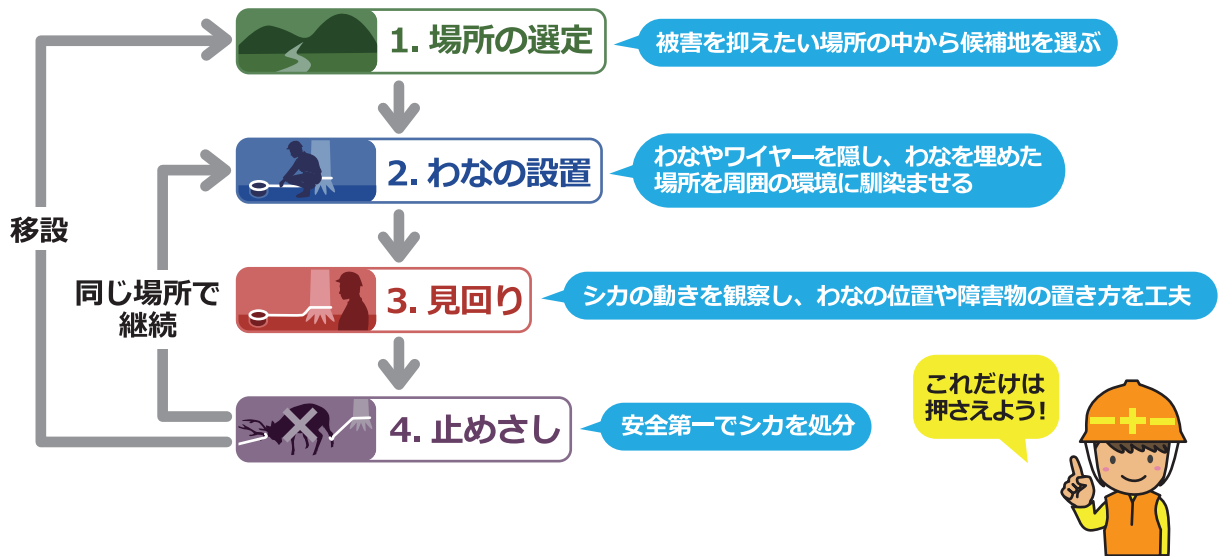
8:00	12:00	13:00	17:00
出勤	見回り(餌やり)	休憩	通常業務
			退勤

見回り(餌やり)は1～2週間に1回の頻度で実施している。また、捕獲があった日は通常業務の合間に止めさしと埋設を実施している(1時間程度)。



## 4 くくりわなによる捕獲

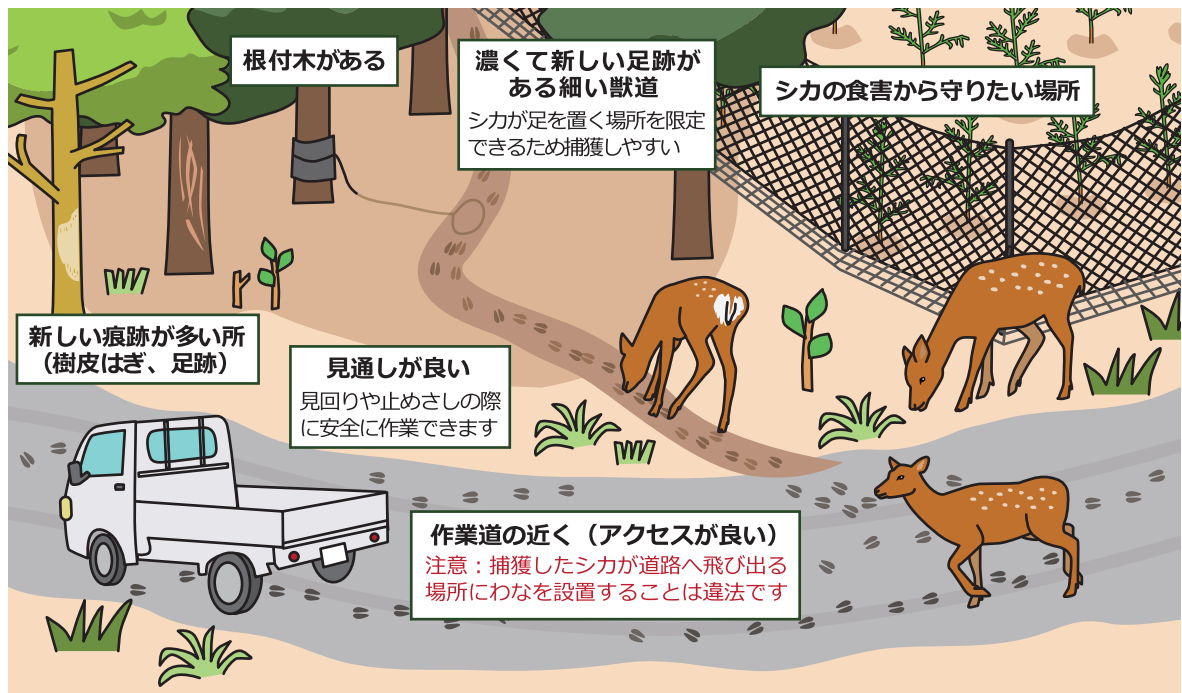
### (1) くくりわなの捕獲の手順とポイント



### 1. 場所の選定

#### 場所選定の基準

捕獲の可能性が高い、安全に作業できる、作業の効率性が高い場所を選ぶ



## 2. わなの設置

### 設置の手順



### 設置に必要な道具

▶p11 参照 (誘引式くくりわなと同じ)

完了



### 設置のポイント

- ピンポイントで足を置く場所に埋める (わなを踏むように足を置く場所を誘導する)
- わなを埋めた場所を周りの環境に馴染ませる
- わなやワイヤーは見えないようにしっかりと埋める (隠す)

### 作動確認

わなの設置に慣れていないうちは、埋めたわなを作動させ、わなが作動する重さやワイヤーがくる高さなどを確かめてください

▶p11 参照 (誘引式くくりわなと同じ)

## 3. 見回り

### 見回りの手順 ①安全な場所からわなの状況を確認する → ②捕獲できるように工夫する

わなを毎日見回ることによって安全確保と捕獲成果の向上につながります

※ 遠隔でわなを確認する時も画像等で1日1回は確認してください

#### ① 安全な場所からわなの状況を確認する



- イノシシやクマの幼獣が錯誤捕獲された時は、親がわなの近くにいることがあるので注意してください

※錯誤捕獲とは、捕獲対象以外の鳥獣を誤って捕獲すること

## ② 捕獲できるように工夫する

- わなに対するシカの反応を確認してわなや障害物の配置を工夫する
- 誤作動したわなや露出したわなを埋め戻す

捕獲成果  
アップ!



### 見回りと安全確保

#### 捕獲した動物をなるべく早く止めさし、または放獣する

- ▶ 捕獲した動物を長時間放置すると、止めさし時に足がちぎれたり、捕獲した動物にクマが誘引されたりして重大な事故の原因になります

クマやイノシシが誘引されている痕跡（足跡や糞など）がある場合はわなを移設する

### 捕獲がうまく行かない時の対応例

#### 踏まれたわなが作動していない

- ▶ 土が固まりわなが作動しにくい → 土を減らす、固まりにくい土を使う、わなを移設する
- ▶ 設置に問題がある → 作動確認してから設置する

#### わなの縁を踏まれている

- ▶ 障害物の位置やわなの位置をずらす

#### わなが作動しているがワイヤーに枝や落ち葉などが挟まっている

- ▶ ワイヤーから足が抜けた可能性があるので、わなの被覆物を変更する

#### 他の動物に繰り返しわなを掘り返される

- ▶ わなを移設する



### 4. 止めさし

▶ p13 参照（誘引式くくりわなと同じ）

## (2) 事例紹介

＼ 林業事業体だけで実施！

### コラム

#### くくりわなによる捕獲の事例

福井県の池田町森林組合では平成 26 年度から捕獲に取り組んでいる。くくりわな 20 基と箱わな 2 基を運用し、毎年 7 月～ 2 月頃にくくりわなにより 15 頭前後のシカを捕獲している。



捕獲場所  
(クマ剥ぎの被害も多い)

#### ◆ 捕獲の経験

捕獲を始めた当時、捕獲の経験者はいなかったが、今では森林組合の職員約 10 名が捕獲作業に従事している（主に従事しているのは事業課の職員）。

## ◆技術を身に付けた過程

**1年目** 県猟による講習会（座学）の受講、免許講習の受講や免許試験の受験

**2年目** 地元猟友会による現地研修（わなの設置方法等）

**3年目以降** 毎年1回地元猟友会による現地研修

※近所に住む猟師に気軽に指導や相談を依頼できる環境にある。

## ◆わなの種類と設置作業の様子



地元の猟師に紹介してもらった「信州トラップやま」を使用



最初は教えられたとおりにわなを設置するのが難しかったが、今では山の状況も見ながら設置できるようになった。

シカの痕跡等の観察力も上がっており、シカを捕獲できる場所がわかるようになった。わなの設置方法は今でも試行錯誤をしながら進めており、わなをピンポイントで踏ませるために、わなの前後にまたぎ棒を置いている。

## ◆止めさし

主に電殺器で止めさしを実施している（地元猟師にやり方を習った）。

止めさしは猟師に依頼することになっていたが、猟師の都合もあり、小さい個体は組合で止めさしすることになった。経験を積み、今では大きい個体も止めさしできるようになっている。



## ◆現場の声

止めさしを実施できるようになった最大の要因は「誰かがやらなければならない」という必要に迫られたから。電殺器は出血しないため他の方法に比べて抵抗が少なく、ナイフ等の刺殺であれば難しかっただろう。

## ◆1日の作業スケジュールの例

8:00	9:30	11:00	12:00	13:00	17:00
出勤	通常業務	見回り	止めさし・埋設	休憩	通常業務
					退勤

見回りは1人～2人で実施しており、捕獲があった場合は他の職員に応援を要請している。

## 第4章

# 林業地における捕獲の実施体制



1章

2章

3章

誘引式くくりわな

箱わな、囲いわな

くくりわな

4章

5章

### 1 林業事業体だけで捕獲を実施する

単独で捕獲を実施している林業事業体もあります。そのような林業事業体には、以下の特徴があります。

- 捕獲技術者から継続的に技術指導を受けた
- 林業事業体の中に捕獲技術者がいた

#### コラム 単独で捕獲を実施している森林組合の事例

九州地方のある森林組合では平成 29 年度から捕獲に取り組み、令和元年度は隣接する 2 地域で誘引式くくりわなを約 60 基運用し、5 月から 1 月までに約 200 頭のシカを捕獲した。

※令和 2 年度は 4 地域で捕獲を実施している



捕獲場所の 1 つ、正面の山の作業道沿いにくくりわなが仕掛けられている



わなが仕掛けられている作業道付近の樹皮はぎ被害の様子

#### ◆捕獲のきっかけ

植栽後、獣害防止ネットを設置しているが、動物による破損や侵入により植栽木が食害に合い、ネットの維持管理に費用と時間がかかっている。また、山の所有者との約束である「皆伐後、植栽してお返しする。」ということが難しくなってきた。獣害防止ネットだけでは被害は抑えられないので、「守ってもダメなら攻めてみよう」と考えて県に相談した結果、国の補助事業と地元の自治体の協力で捕獲を実施することになった。

#### ◆捕獲の経験

捕獲を始めた当時、捕獲の経験者はいなかった。捕獲も仕事であるため、職員全員で狩猟免許を取得し、職員 6 名と現場技術職員 5 名が捕獲作業に従事している（主に従事しているのは事務系の職員）。

## ◆捕獲技術を身に付けた過程

県の紹介で捕獲の知識を有する有識者に指導してもらった。

座学1回(半日) : シカの生態、安全管理、捕獲手法などに関する講習

実習2回(各半日) : わなの設置など

その後は、実際に捕獲をする中で、技術を身に付けていった。

## ◆止めさし

主に電殺器で止めさしを実施している。動画でやり方を学び、実践する中で技術を身に付けていった(最初はうまくできなかった)。雨の日はナイフ(槍)で止めさしを実施している(電殺器と同様に動画で学んだことを実践)。現在、約10名が止めさしする技術がある。

※イノシシが捕獲された場合は猟友会に依頼して銃で殺処分してもらっている

## ◆わなの様子



作業道沿いにわなを設置することで効率的に見回りを実施している(中央の木の白標識の下にわなが設置されている)



様々な餌を試した結果、餌にはアオキを使用している(アオキの隣にわなが設置されている)

## ◆1日の作業スケジュールの例

8:30	12:00	13:00	15:00	16:00	17:15
出勤	見回り	休憩	止めさし・埋設	餌の補充等	作業記録等
					退勤

見回りは1人で実施しており、捕獲があった場合は近くで作業中の現場技術員に応援を要請している。

1日に5~6頭の捕獲がある時は17時までに現場作業が終わらないこともある。



## ポイント

捕獲の未経験者だけで捕獲作業に取り組み始めるのは、安全面・知識面・技術面すべてでハードルが高くなります。まずは、技術を持った人と一緒に捕獲をしたり研修会などで技術指導してもらったりすることが、技術習得への近道です。

## 2 捕獲技術者と作業を分担して捕獲を実施する

猟友会等の捕獲技術者と協力して捕獲に取り組む林業事業体もあります。捕獲技術者との協力としては、以下のような作業分担が多いです。

- 林業事業体が「わなの見回り」を実施（わなの設置、止めさしは猟友会が実施）→**狩猟免許は不要**
- 林業事業体が「止めさし以外」を実施（止めさしだけ猟友会が実施）→**狩猟免許が必要**

### コラム 捕獲技術者と協力して捕獲を実施している森林組合の事例

奈良県の野迫川村森林組合では平成 28 年からくりわな等を用いて猟友会と一緒に捕獲作業を実施している。平成 30 年度には誘引式くりわな（小林式誘引捕獲法）で 30 頭のシカを捕獲した（▶p15 コラムを参照）



#### ◆捕獲のきっかけ

県のモデル事業として捕獲を実施することになった。地元地権者との調整に長けているという点で森林組合が従事者となったが、組合には止めさしや錯誤捕獲の対応ができる人がいなかったため、猟友会と協力して実施した。

#### ◆捕獲の経験

捕獲の経験者はいなかった。森林組合職員は狩猟免許を持っていなかったため、一連の作業を猟友会会員と協力して実施した。

	場所の選定	わなの設置	わなの見回り	生体捕獲	止めさし
森林組合	●	●	●	△※	△※
猟友会	●	●	●	●	●

※生体捕獲や止めさしは猟友会会員が実施し、森林組合職員は保定等の補助を行った

#### ◆特徴的な取り組み

猟友会会員の提案で生体捕獲を実施した。捕獲したシカは隣接する市が運営する解体施設に持ち込む直前に止めさしをすることでジビエ肉として有効活用ができた。捕獲した個体を無駄にせず有効活用することで、止めさしに対する心理的負担が軽減された。



林内運搬の様子

#### ◆1日の作業スケジュールの例

8:00	8:30	12:00	13:00	14:30	16:30	17:00	
出勤	通常業務	見回り	休憩	運搬※	止めさし	通常業務	退勤

※ジビエ肉として有効活用するため生体で運搬

# 第5章

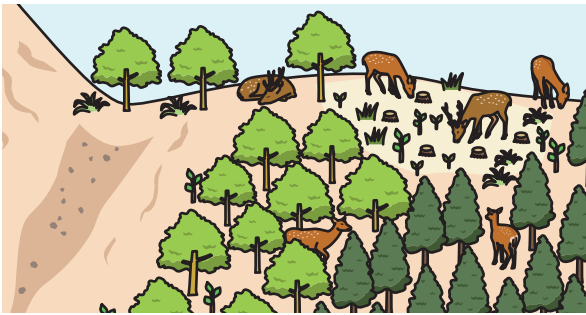
## シカの動きと森林施業を考慮した捕獲作業



### 1 シカの生態的特徴

シカの生態的な特徴を理解し、捕獲に結び付けましょう

**生息環境** 尾根、緩斜面、平坦地をよく利用し、足場の悪い場所はあまり好みません。森林は身を隠す場所として適しており、森林を伐採してできた草地は餌場に適しています。



**習性** 石や枝など障害物を避けて歩く習性があります。また、構造物が設置されるなど環境に変化があれば警戒しますが、安全であることがわかれば、徐々にその環境に慣れていきます。



**行動** メスは母系的な群れを作って行動します。生活圏は一般的に数 km<sup>2</sup> ほどですが、雪の降る地域では夏と冬で生息場所を変える個体も存在します（季節移動）。

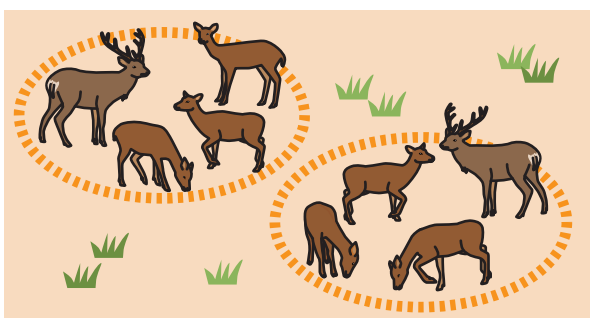


**食性** 草本類、ササ類、樹皮、枝、落葉、堅果類など口が届く範囲の植物をほとんど食べることができます。好んで食べない植物もありますが、好きな植物が少なければ食べるようになります。食べる植物の種類は、季節や地域ごとに異なります。



**繁殖** 大人のメスは毎年妊娠して5～7月頃に1頭の子を産みます。出産前後はメスの警戒心が高くなります。繁殖様式は一夫多妻型※でオスが捕獲されても次のオスと交尾出来るため、増加を抑えるにはメスの捕獲が効果的です。

※メスは複数のオスと交尾することもあります



1章

2章

3章

誘引式くりわな

箱わな、囲いわな

くりわな

4章

5章



## 2 森林施業とシカの動きの関係

森林施業に対するシカの動きを考慮して捕獲の時期や場所、手法を検討します



- 施業中の昼間はシカを見ることは少なくなりますが、人がいない夜間は普段と変わらず施業地で生活していることがあります。
- 施業後は、餌が増えた場所では出没が多くなります。特に、主伐後の伐採跡地、造林地、敷設した作業道などは草が生え、シカが餌を求めて出没しますので、伐採跡地等へのシカの移動経路沿いにわなを仕掛けると効率的に捕獲できることがあります。

## 3 防護柵とシカの動きの関係

柵に対するシカの動きを考慮することで効率的に捕獲できることがあります



- 移動したい経路上に柵がある時は、シカは柵に沿って歩くため、柵沿いはシカの足跡などを発見しやすくなります。
- 柵の破損している箇所はシカの侵入箇所になるため、破損箇所はシカの足跡などを発見しやすくなります。

▶ ① 柵からの移動経路沿いにわなを仕掛けることで効率的に捕獲できることがあります。

▶ ② 破損箇所の移動経路沿いにわなを仕掛けることで効率的に捕獲できることがあります。

※ わなにかかったシカが柵を壊さない場所にわなを設置してください。

## 付録 ICT 機器の活用

近年、捕獲に活用できる様々な ICT 機器が開発・販売されています。

ICT 機器の機能は「捕獲通知（画像なし）」「捕獲通知（画像あり）」「遠隔監視」「遠隔捕獲」「自動捕獲」に大きく分類できます。それぞれの特徴を記載しますので、導入を検討する際の参考にしてください。

分類	概要
捕獲通知 (画像無)	わなが作動した時に、メール等で通知がある。
捕獲通知 (画像有)	わなが作動した時に、メール等で画像付きの通知がある。
遠隔監視	任意のタイミングでわなの画像を見ることができる。
遠隔捕獲	囲いわなに設置されることが多い。遠隔でわなの画像をリアルタイムに確認して手動で扉を落として捕獲する。
自動捕獲	箱わなや囲いわなに設置されることが多い。動物の大きさ、頭数などをセンサーが感知して、設定した条件を満たすと扉が落ちて捕獲できる。

複数の機能を組み合わせた商品もありますが、上記の分類ごとに主な特徴を整理します

分類	非通信環境 下の使用	わなの作動を 遠隔で把握	捕獲した動物 を遠隔で確認	任意のタイミングで わなを遠隔で作動	ICTで 選択的に捕獲
捕獲通知 (画像無)	× <sup>(注1)</sup>	○	×	×	×
捕獲通知 (画像有)	× <sup>(注1)</sup>	○	○	×	×
遠隔監視	× <sup>(注1)</sup>	○	○	×	×
遠隔捕獲	× <sup>(注1)</sup>	○	○	○ <sup>(注2)</sup>	○
自動捕獲	○	×	×	×	○

(注1)

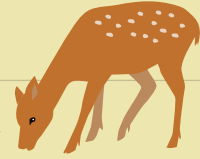
中継機の設置等により ICT 機器の設置場所自体は電波が無くても使用できることがあります

(注2)

誤作動や錯誤捕獲の可能性は低いですが、作動に人手が必要です（動物の捕獲は夜中が多い）

## コラム

### ICT 機器は作業の省力化と 捕獲成果の向上を実現できるのか？



ICT機器は「作業の省力化」を謳う商品が多いですが、「作業の省力化」は多くの場合「捕獲成果の向上」に結びつきません。

例えば、わなに捕獲通知（画像有）のある ICT 機器を設置し、通知があるまで見回りをしなければ「作業の省力化」になります。しかし、現場でシカの痕跡を見て仕掛けを工夫したり、日々わなの手入れをしたりする方法と比べて、多くのシカを「捕獲」することはできるでしょうか。

「作業を省力化」してもシカが近くに寄り付いていないわなや雨で露出したままのくりわなを放置していたら捕獲の機会は減ってしまいます。また、ICT 機器は機械である以上、配線が切れたり、電池が切れたりして機能せず、捕獲した個体を放置してしまう可能性もあります。

第3章の「わなの見回り」に記載のとおり、安全確保と捕獲成果の向上のために見回りは必要な作業です。「作業の省力化」と「捕獲成果の向上」は、捕獲技術があり ICT 機器の特徴を十分に理解した方が ICT 機器を適切に運用した場合に実現できるものです。ICT 機器の活用により実現できる効果を理解した上で、目的にあった利用を心掛けましょう。

ICT 機器の商品一覧情報：農林水産省 HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/kikijouhou/kikijouhou.html>

マニュアルの作成にあたり、ニホンジカの専門家にご協力いただきました  
(敬称略・順不同)

飯島勇人 国立研究開発法人森林総合研究所 主任研究員  
坂田宏志 株式会社野生鳥獣対策連携センター 代表取締役  
羽澄俊裕 鳥獣保護管理プランナー

---

## シカ捕獲技術マニュアル

令和3年3月発行

制作：株式会社野生動物保護管理事務所

